

2007 年度氷河情報センター分科会報告

2007年度日本雪氷学会全国大会（富山）において氷河情報センターの総会を開催した。総会では活動・会計報告，役員改選ならびに活動方針・予算案の承認を行った。またその後の講演会では『研究情報の管理・共有・利用に関する講演会』として，2件の講演と質疑応答・意見交換がなされた。

日時：9月25日（火）14：00-16：20

場所：富山大学（共通教育棟1番教室）

総会：

1）活動・会計報告

懸案だったBGRバックナンバーおよび氷河情報センター発行モノグラフのPDF化が完了した。

2）役員改選（○：再選，他は継続）

センター長：○幸島司郎（京大）

財務幹事：杉山 慎（北大低温研）

庶務幹事：内藤 望（広島工大）

広報幹事：三宅隆之（極地研）・松田好弘（名大）・植竹 淳（融合センター・極地研）

3）活動方針・予算案の承認

講演会：

昨今，各種の共同研究プロジェクトによって多くの氷河観測データが得られつつある。その一方で，これまで日本の氷河調査・研究を率いてこられた世代の相次ぐ引退とも相まって，過去の貴重なデータや情報の散逸を危惧する声がある。氷河情報センターでは，そのような貴重なデータ・情報を恒久的に蓄積し管理・共有するような事業を推進できれば望ましいところであるが，予算・マンパワーの関係上，その実現は相当に困難と言える。そこで，氷河情報センターとして事業を推進する代わりに，情報や意見を交換し議論の俎上に載せる機会として，『研究情報の管理・共有・利用に関する講演会』と題し，今回の講演会を企画した。

講演の内容は，まず海洋研究開発機構地球環境観測研究センターの矢吹裕伯氏に「アジア・北極域寒冷圏データライブラリ構想－観測データの将来についてデータの保管とその共有に関して－」と題して，アジア・北極域寒冷圏における雪氷学に関する総合的

なデータライブラリ構想について、その背景や趣旨・思想を紹介して頂いた。

次に北海道大学低温科学研究所の宮本淳，イセーンコ・イエフゲーニ両氏に「南極ドームふじ氷床コアサンプルデータベース構築と管理運用について」と題して，南極ドームふじ氷床コアサンプルの管理のために改良し，現に運用しているデータベース・システムについて，その目的や改良点を，紹介して頂いた。ただしこのコアサンプルの利用やデータベースの閲覧は，関係者に限定されており，今回はあくまで現に運用されているデータベース・システムの好例として，話題提供をお願いしたものである。

限られた時間での講演会ではあったが，今後のデータ・情報を管理し共有していくシステム作りに向けて，近い将来，有益な一里塚であったと振り返れることを期待したい。

文責：

内藤 望（広島工大）

植竹 淳（融合センター/極地研）

三宅隆之（極地研）